酪農宮崎

令和6年4月30日　印刷
令和6年5月　1日　発行
編集人：有 馬　慎 吾
発行所：宮崎市霧島1丁目1番地1
宮崎県経済農業協同組合連合会
電話(0985)31-2100
http://www.kei.mz-ja.or.jp/
印刷所：宮崎市大字赤江字飛江田931
宮崎紙工印刷株式会社
電話(代)78-2324

みやざき産牛乳をみんなで飲もう!!

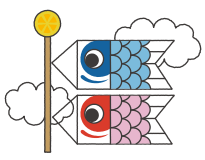
毎月1日は牛乳の日!

NO.630
2024年5月

九州酪農青年女性酪農発表大会

5月号目次

酪農情勢報告 …… 1
ルーツを訪ねて！ …… 2
九州酪農青年女性酪農発表大会 …… 3
家畜伝染病について …… 4
暑熱対策について …… 5～6
農大通信vol.6 …… 7
ミルクラン …… 8
農学部ナンノ教授のひとりごと …… 9
全酪連広告 …… 10
全農広告 …… 裏表紙



MILK UP! プロジェクト

経済連ＨＰ

酪農情勢報告

1.生乳生産動向

令和6年4月15日現在

指定団体	3月(トン)	前年比(%)	累計(トン)	前年比(%)
北海道	340,129	101.3	3,915,944	96.9
東　北	39,951	95.1	460,977	93.5
関　東	91,704	100.3	1,019,379	97.2
北　陸	5,762	95.4	66,202	92.5
東　海	26,431	96.5	293,419	93.8
近　畿	12,478	100.2	138,546	96.4
中　国	25,959	101.5	285,609	97.9
四　国	9,090	98.8	102,757	97.7
九　州	50,211	98.5	548,547	96.0
(内、宮崎)	6,018	97.9	66,055	95.8
都府県	261,585	98.7	2,915,436	96.0
合　計	601,714	100.1	6,831,380	96.5

2.販売状況

令和6年4月15日現在

用　途	区分	3月(トン)	前年比(%)	累計(トン)	前年比(%)
飲用牛乳	全国	232,004	95.3	2,979,655	96.2
	九州	30,831	92.9	383,402	94.8
はっ酵乳等	全国	35,516	96.1	425,563	96.2
	九州	7,097	100.3	84,683	100.7
特定乳製品	全国	186,091	109.9	1,711,266	95.2
	九州	9,701	120.9	51,569	97.4
生クリーム	全国	110,120	97.8	1,287,974	99.5
	九州	2,487	95.6	27,786	97.8
チーズ	全国	37,983	97.9	426,921	95.2
	九州	94	96.9	1,107	97.5
合　計	全国	601,714	100.1	6,831,380	96.5
	九州	50,211	98.5	548,547	96.0

(小数点以下の四捨五入等で合計が一致しないことがあります)

3.生乳出荷量別生産者戸数　3月

生乳出荷量	戸数
100ｔ以上	7戸
80ｔ以上　～　100ｔ未満	1戸
60ｔ以上　～　80ｔ未満	13戸
40ｔ以上　～　60ｔ未満	24戸
20ｔ以上　～　40ｔ未満	69戸
10ｔ以上　～　20ｔ未満	45戸
10ｔ未満	19戸
合　計	178戸

最高出荷量	266t／月
平均出荷量	34t／月

4.トピックス

本県の令和5年度生乳出荷実績数量67,505ｔ

新緑の美しい季節、清々しい日々を迎えておりますが、イタリアンライグラス等牧草の収穫期でご多忙のことと存じます。令和5年度の生乳生産量が確定いたしました。本県の生乳生産量は67,505t(前年比95.6%)の実績となりました。大型農場を除いても前年比94.6%と数字的には、前年を大幅に下回っております。九州ブロックの生産量は、549千t(前年比96.0%)、都府県が2,915千t(前年比96.0%)、北海道が3,916千t(前年比96.9%)となっております。ご承知のとおり、全国的な廃業農家の増加とそれに伴う乳牛頭数の減少や乳用後継牛確保が潤沢ではなく、昨夏の猛暑も大きな要因となり、本県を含め、全国的に生乳生産量が前年を下回る状況となりました。また、全国の生産量に対する北海道の割合は、57.3%と平成21年度から5割を超えて以降、年々伸びておりましたが、昨年度から横這いの状況で推移しております。本県の生乳生産量の確保に際しまして、酪農家皆様のご理解とご協力を賜り、厚く感謝申し上げます。

※都府県、北海道の数量には公共施設分等は含んでおりません。

本県の酪農家戸数は、令和5年度で11戸の酪農家が廃業され、令和6年度は、178戸からスタートし、4月に2戸廃業されましたので現在、176戸となっております。先月号でも触れましたが昨年度に引き続き、生乳需給安定化対策要領に基づき、各酪農団体等が提出した年間計画(生産者の積み上げ数量)が生乳出荷目標数量の基本となり、本県の令和6年度生乳出荷目標数量は、71,065ｔ(前年比98.4%)となり、大型農場の出荷割合が増加したことにより、前年と比較し1.6%減にとどまりました。令和6年2月1日現在の頭数調査によりますと、県内の乳牛総頭数が前年より200頭減少しております。昨年度も情勢悪化を背景に本県の乳用素牛導入実績が例年より少なく、乳用牛精液供給も減少しており、今後、乳用後継牛不足が危惧されます。生乳出荷目標数量の達成のため、雌判別精液の活用、計画的な交配・導入により、後継牛確保に努めましょう。

令和6年4月1日より県域ＪＡであります「ＪＡみやざき」が発足し、1ヶ月が経過いたしました。旧13ＪＡは、各地区本部となり、本会がある宮崎市のＪＡビル内に本店が位置づけられております。来年、3月1日からは経済連、中央会、県信連、3畜連の連合会も「ＪＡみやざき」に包括承継されます。将来的には、組合員であります農家皆様の所得向上の実現に向け、酪農を含む、各部門の事業整備が開始されることとなりますので、引き続き、酪農家皆様及び関係者皆様のご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

―唯一生き残ることが出来るのは、変化できる者である―

酪農課　加藤　喜博

ルーツを訪ねて！「老牧夫回想録」より（高橋照次著）

交通巡査が辻毎に立ってラッシュアワーの交通整理をしているが、この国では交通警察は独立しているそうだ。車の後部窓にLと貼られているのは運転初心者の標識で、この車と衝突事故を起こした場合は、この標識のない方が負けだ。」と戸塚さんが教えてくれた。

全寮制のカンタベリー大学や博物館、市立図書館等を過ぎると、大きな石のアーチがある。これは第一次世界大戦、第二次世界大戦の戦没者慰霊碑で西側が第一次大戦、南側が第二次大戦のものだという。

やがて薄いスモッグの中に、大尖塔の上につけられた十字架の輝やくクライスト・チャーチ（この地の移住者達が最初に建てた教会で、この教会の名が、そのまゝ市の名となる）前の広場にバスが停められた。そこにニュージーランドに来てから初めて二泊を重ねるユーナイテッド・ステードホテルがあった。

十月三〇日（水）晴

昨日でニュージーランドの酪農視察を終って今日はレジャーと云うところ。八時十五分に宿を出て、空港から二四人乗りのクック観光専用機に乗る。

カンタベリー大平原は北島の緑一色の牧野と異なり色とりどりの畑に仕切られていて美しい。こゝでは大麦、小麦の類から飼料用ビートまでいろいろ作っているからであろう。

やがてクック山系に入る。嶮峻な岩山が深い雪に閉ざされている。山と山の間を飛行機は縫って飛ぶ、時々絶壁に或は深い雪の山肌に突っこみそうで、一、五〇〇万円（旅行保険）が妻の手に渡るのではないかとヒヤヒヤさせられる。

「この観光コースは山きちがいで飛行機狂の人が開発したもので、まだ一度も事故起したことはないから大丈夫。私は今度で四回目だが今回程好天と気流に恵まれたことはない。皆さんほんとに運がよかった」と戸塚さんが云う。南極を除く南半球で一番長い（約二〇k）と云うタスマン氷河が手の届きそうなすぐ下に見える。すばらしい命の洗濯をして、山合の小さな飛行場に着陸。

戸塚さんと石川さん（陸士五五期の戦斗機乗り）小林さん、大内さんの四人とジェフさん（二七年も空軍にいた退役軍人だと云う）の五人が、スキーをつけたセスナ機でタスマン氷河を滑りに行って来ると出かける。五人乗りで四〇ドルだそうだ。我々は山のホテルで休けい。昼食になってもまだ帰って来ない。「フェーマス・トラベル・ライター、ミス・トヅカ、タスマン氷河に墜落か？捜索隊を編成しようか」と冗談言っているところに、元気で帰って来た。

「雪の状態が悪くて降下できなかった。どうしても一度滑らなくては気が済まない。もう一度来ることにする。」……恐ろしく気の強いお嬢さんだ。やはり一人旅を楽しみ乍ら、地球を二一周した戸塚さんらしいことばだ。

夕刻再び雪の山を越えて、カンタベリー平原に出ると雨模様になる。全く幸運だった。

十月三一日（木）晴

七時十五分、ホテルを出て空港に向う。戸塚団長からジェフさんのメッセージが伝へられた。「皆さんが楽しく且つ熱心にニュージーランドの酪農について勉強して下さったことを私自身としても嬉しく、ニュージーランド・デーリーボードを代表して感謝します。日本とニュージーランドは非常に関係が深い。特に酪農民の皆さんとは緊密に協力し合って行きたい。平安な旅行を続けられて無事日本にお帰りになれるように、デーリーボードを代表して、お祈りします。」ジェフさんはデーリーボードで情報を担当しているそうだが、いかにも英国型の退役軍人らしい、折目正しさを感じさせ、しかもこまかい点に気を配る人だった。

第51回 九州酪農青年女性酪農発表大会

JA 宮崎経済連　酪農課　伊豆元　真由子

第51回　九州酪農青年女性酪農発表大会が4月17日(水)～18日(木)に長崎県諫早市の「ホテルグランドパレス諫早」にて開催され、経営発表の部2名、意見・体験発表の部8名の各県代表が経営状況や活動内容・将来の酪農経営などについて熱い思いを発表されました。

開会にともない、九州酪農青年女性会議　中村俊介委員長より、「2日間に渡る大会を開催できるのは5年ぶりとなり喜ばしく感じている。日頃の成果についてプレゼンをしていただき、今後の酪農経営に役立てていただきたい」と挨拶がありました。

その後、宮崎県代表として、意見・体験発表の部で、蓑方浩仁さん(串間酪農協)が「蓑方酪農の始まり」というテーマで発表を行いました。

意見・体験発表の部の審査講評では、「8名の方の話を聞いて、内容については八者八様で素晴らしい発表だったが、酪農に対する思いは皆一緒であると感じた。その中で、今後の酪農業界の課題であるワークライフバランスをテーマに発表された松本さんを最優秀賞に決定した。発表者の皆様にはこれからも様々な活動を続け、酪農の可能性を伝えていっていただきたい」との話がありました。

全国大会は、7月18日(木)～19日(金)愛知県名古屋市で開催される予定です。

【経営発表の部】

1．『地域と共にさらなる高みへ』　宇藤　貴夫氏（熊本県）　★最優秀賞
2．『酪農に近道なし。一つ一つの改善を大切に。』　田中　敏雄氏（福岡県）

【意見・体験発表の部】

1．『楽農食育をとおして』　﨑村　優也氏（長崎県）
2．『「平田牧場」をめざして』　平田　尚也氏（沖縄県）
3．『私に進むべき道を教えてくれた大好きな牛達～マックとの運命の出逢い』　桐原　愛氏（熊本県）
4．『三代目　Dairy　Professional』　小野　宏治郎氏（大分県）
5．『脱サラ酪農家の奮闘記』　菊永　和喜氏（鹿児島県）
6．『今更だけど、ワークライフバランス』　松本　裕子氏（佐賀県）　★最優秀賞
7．『私の牧場物語～第三者継承をうけて３年目に突入～』　長渡　雄一郎氏（福岡県）
8．『蓑方酪農の始まり』　蓑方　浩仁氏（宮崎県）

新型コロナウイルス(COVID-19)に関する入国規制が緩和され、海外からの人・モノの移動が増えています。また、近隣国では口蹄疫、アフリカ豚熱、国内では豚熱、高病原性鳥インフルエンザが発生しています。家畜伝染病の病原体の侵入防止のため、引き続き防疫対策を徹底しましょう。

海外からの侵入防止

□発生国への海外渡航の自粛
□海外からの肉製品の持ち込み禁止

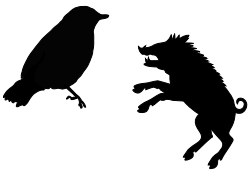
アフリカ豚熱、口蹄疫等の発生地域への不要不急の渡航は自粛しましょう。
海外からの肉製品は、携帯品、国際郵便物でも持ち込み禁止です。外国人従業員の方にも周知しましょう。

農場への侵入防止

□部外者・不要なモノの農場立ち入り制限
□農場、畜舎に入るときは専用衣服・手袋・長くつの着用
□消毒の徹底

看板等を設置し、部外者や不要なものが立ち入らないようにしましょう。
専用衣服・長くつに着替える際は、前後で、動線が交差しないようにしましょう。
消毒は適切な濃度で消毒すること、踏み込み消毒槽は汚れがなくても1日1回は交換することが大事です。

野生動物からの侵入防止



□防護柵・防鳥ネットの設置
□破損部分の点検・修繕

柵、ネット、畜舎の壁・天井等は定期的に点検し、破損部分は修繕しましょう。

万が一の備え

従業員の方も含め、豚熱、アフリカ豚熱、口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザの特定症状、緊急時の連絡体制を改めて確認しましょう。異常をみつけたら、早めに管理獣医師、最寄の家畜保健衛生所に連絡しましょう！

周りの方にも呼びかけ、
日本一安全・安心な宮崎県を目指しましょう。

～毎月20日は県内一斉消毒の日です！畜舎・車両・人・物品の消毒を励行しましょう！！～

ＪＡグループ宮崎

暑熱対策をしましょう！

ヒートストレスメーター

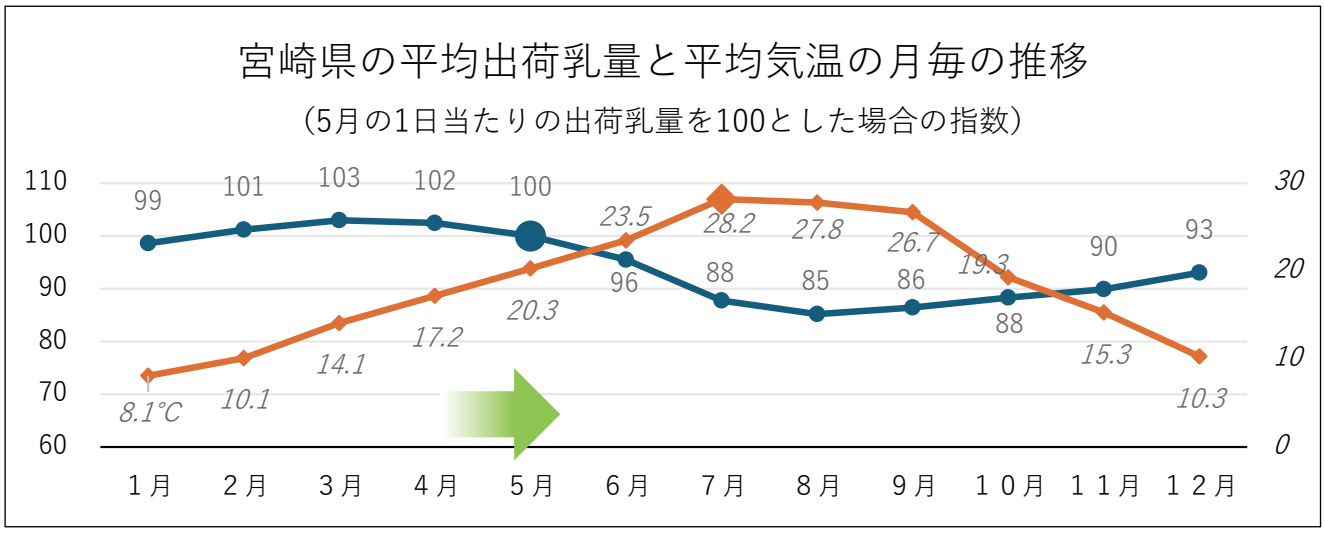
1　はじめに

乳牛は暑さに対して抵抗力が弱く、人よりも強く暑さを感じているため、日頃から気温等に気をつけながら飼養管理をする必要があります。これから、本格的な夏を迎えますので、暑熱対策に取り組みましょう。

2　暑さの影響はいつから

令和５年の宮崎県の１日当たり平均出荷乳量と平均気温の月毎推移は下記表のとおりです。

平均気温は１月から上昇し、５月から２０℃を超え、７月にピークとなりました。１日当たりの乳量は３月が最も多く、４月から８月にかけて低下し、ようやく９月から徐々に回復し始めました。このことから、**本格的な夏を迎える前の４、５月頃から早めの対策が必要です。**



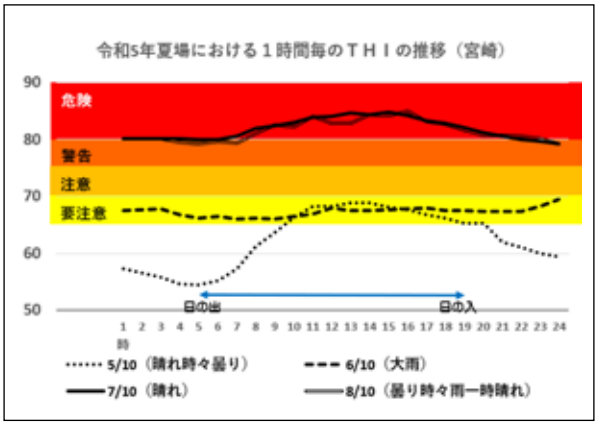
※平均出荷乳量：宮崎県経済連調べ、平均気温：気象庁データより

3　梅雨の時期の暑熱ストレス

令和５年の夏場における１時間毎のＴＨＩ※の推移(宮崎)は右記のグラフです。

令和５年は５月３０日に梅雨入りし、７月１５日に梅雨が明けました。

梅雨入り前の5/10は晴れ時々曇りの天気でしたが、日中には要注意レベル(THI 65-70)になっており、6/10の大雨の日は1日中要注意レベルとなり、7/10、8/10は1日中警告レベル(THI 75-80)と危険レベル(THI 80以上)で推移していました。



特に、梅雨の時期は、気温は低くなるものの湿度は高くなるため、ＴＨＩは高くなります。また、梅雨明け後でも、夜間のＴＨＩは高く推移しているので注意が必要になります。

※ＴＨＩ(温湿度指数)は人間の不快指数と同じ式で計算され、数値で評価(要注意、注意、警告、危険)をします。ＴＨＩが68を超えると、乳牛の生産性が低下し始めます。THIは、気象庁データの宮崎の平均気温と相対湿度により算出。

4　暑熱対策のポイント

ヒートストレスメーターや乾湿温度計、風速計等により状況をしっかり確認して、乳牛にとって快適な牛舎環境や採食量が低下しない工夫などの暑熱対策に取り組みましょう。

整理された通路とヒートストレスメーター

（1）牛舎内外の整理整頓をする

牛舎の周りや通路にロールベール等を積み上げたままにすると風通しが悪くなるので不要なものは片付けしましょう。

（2）牛体をきれいにする

乳牛の毛刈りや牛体の汚れを落とすことにより体表面からの熱が逃げやすくなり、細霧の散布や換気扇による効果が上がります。

（3）直射日光や輻射熱を抑える

特に、西日による直射日光は要注意です。牛舎内に日差しが差し込まないように寒冷紗やカーテン等により遮光しましょう。また、通路からの照り返しにも気をつけましょう。

スレートの屋根裏温度はかなり高くなるので、屋根への散水、石灰や断熱塗料の塗布により輻射熱を抑えましょう。

（4）風速、風向を確認する

乳牛の感じる暑さには、温湿度だけでなく、風速も深く関わっています。乳牛の体感温度は1m/秒の風が牛体にあたると、気温より6℃下がります。牛体に風が充分にあたるように換気扇や扇風機の設置場所や風力を調整しましょう。

シャボン玉（電動）による風速・風向の確認

（5）換気扇や扇風機を清掃する

換気扇の裏側のフィルターや羽についた埃や汚れを清掃すると風速が改善され、消費電力も少なくなり、コスト削減につながります。

（6）牛体を冷却する

牛体に直接散水し、濡らした後、送風機で牛体を乾かすことで、気化熱により体温を下げることができます。ただし、湿度及びＴＨＩの上昇を引き起こす可能性があるため注意しましょう。

（7）新鮮で清潔な水をいつでも飲めるようにする

飲水量は気温が高くなると増加し、搾乳牛では1日当たり100㍑以上の水を飲みます。飲水量の減少は採食量の低下につながるので、新鮮な水をいつでも飲めるようにしましょう。

（8）エサをいつでも食べられるようにする

採食量は乳量に直結するため、採食量の低下を防ぐことが重要です。良質な粗飼料を給与し、給餌回数を増やしたり、涼しい夜間で給餌をするなど給与方法についても検討しましょう。

5　おわりに

乳牛をよく観察することを基本とし、日頃の飼養管理の中で改善できるところから取り組み、乳牛が快適に過ごせる飼養環境づくりを目指しましょう。また、人も作業するときは熱中症対策をしっかり行いましょう。

（宮崎県総合農業試験場専門技術センター　藤井　真理）

農大通信　vol.6 ～うれしい悲鳴～

ご無沙汰しております。農大教員生活も３年目に突入しました、坂口です。今年度も引き続き農大通信を発信させていただきます。概ね奇数月に載っておりますので、今後ともよろしくお願いします。

さて、副題にありますように現在、畜産学科ではうれしい悲鳴が上がっております。と、言いますのも例年は定員を下回っていた入学生が、今年は受験生が殺到し、31 名もの新入生を迎えることができました。

新入生を歓迎してBBQ！

これは非常に喜ばしい！喜ばしいことなのですが、これだけの人数を指導することがこれまでなかなかなかったため、新２年生たちと「人数多いね～、作業がすぐ終わっちゃうね～」などと言いながら、いつも後回しにしがちな環境整備などを新入生と協力してやっているところです。

新入生が専攻に分かれるのは７月からですので、現在は肉用牛、酪農、養豚、フードビジネスの各専攻を回って、幅広く学んでもらっています。このうち何名が酪農専攻に入ってくれるのか…。勧誘活動を頑張って未来の酪農家を一人でも多く育てていきたいと思います。

話は変わりますが、今年の入学式は“コロナ禍”から脱却して初めての入学式でした。つまり、感染対策の規制がなくなったことで「校歌」の歌唱も解禁され、歌い継がれてきた農大校歌が再び会場を震わすこととなったのです。入学式前日からの歌唱指導を経て、当日に朗々と歌う学生たちの姿はなんとも心に残るものでした。改めて歴史と伝統の深さを思い知らされたものです。

牛を追ったり、可愛がったりしています

実習中の様子も少しだけ紹介させていただきます。１年前に農大の門を叩いた学生たちが、こうして今、新入生たちに農場での作業を指導している姿を見ると、胸にぐっとくるものを感じます。こういうことを感じるのも年齢を重ねた証拠でしょうか。若者のひたむきさに心を打たれます。

ラップフィルムをはがしています

農大生の活動の様子は本校 Facebook でも随時紹介しております。よろしければそちらも是非ご覧ください。
(https://www.facebook.com/miyazaki.noudai/)

酪農宮崎 企画「この人を知る」ーミルクランー

JA宮崎経済連　酪農課

川邊　一仁

【所属・プロフィール】

所属
JA宮崎経済連
酪農課(南日本くみあい飼料駐在)

出身　宮崎県日向市

出身学校　宮崎県立日向高等学校➡別府大学

仕事の概要　中北地区担当

酪農家の皆様へ
畜産農家の負託に応えるべく頑張ります。

日髙里保

【所属・プロフィール】

所属
酪農飼料部　酪農課

出身　宮崎県都城市

出身学校　宮崎産業経営大学

仕事の概要
乳質改善推進データ管理・酪農関連データ管理・調査

酪農家の皆様へ
新入会職員として酪農課に配属になりました。皆様と関わり合いながら日々勉強していきたいと思っています。元気に明るく頑張っていきますのでよろしくお願いいたします。

黒木久美子

【所属・プロフィール】

所属　酪農課

出身　宮崎県西都市

出身学校
熊本学園大学　商学部　商学科

仕事の概要
牛群改良検定事業業務、
畜産環境・近代化リース事業業務、他

酪農家の皆様へ
15年ぶりに酪農課へ戻ってきました。
皆様の日々の業務にお役に立てるよう頑張ります!!

吉村　理英

【所属・プロフィール】

所属　酪農課

出身　宮崎県宮崎市

出身学校　宮崎大宮高校

仕事の概要
課内庶務全般・事業所庶務全般

酪農家の皆様へ
不慣れなことが多く、2月に酪農課に配属になりました。わからないことばかりでご迷惑をおかけしますが、精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。

農学部 ナンノ教授のひとりごと

これからの動物福祉

南野　快

畜産現場における動物福祉の必要性が叫ばれて久しい。動物の福祉（ウェルフェア）とは、いかにして動物に対する苦痛やストレスを最小限に抑えるかということである。この意識の高まりから、先進国では菜食主義者やビーガン（動物性食品を一切口にしない人）の割合が増え、韓国では今年1月に食用の犬肉を販売することを禁止する法案が可決された。

一方で、世界の多くの国では人口一人あたりの動物性タンパク質消費量は増加している。また、市場ではより多様な品質の乳肉製品が求められている。こういった事情を背景として、日本の牛肉輸出量は増加している。動物がリラックスしている方が泌乳量（乳牛）も増体率（肉牛）も上がり、消費者にもアピールできることから、アニマルウェルフェアを推進することは生産者にとってもメリットがある。もちろん、ウェルフェアのためにどれだけの経費をかけることができるか、かけたコストを上回る利益（ベネフィット）を得ることができるかを考えなければいけないことは言うまでもない。畜産は集約化の道を進んで今に至っている。野生では天敵から身を守るというストレスに常に晒されているが、家畜は他の動物に襲われる恐れがないという点でリラックスできるはずである。しかし、舎内環境や飼養者から受ける別のストレスに対処しなければいけない動物が家畜である。高い飼養密度と低いストレスをどうやって両立させるか、が課題である。

アメリカの4つの州（カリフォルニア、オハイオ、ニュージャージー、ロードアイランド）において牛の断尾に関する法規制があり、違反者には拘留、罰金、事業停止といった罰則が設けられている。2022年、スペインは屠殺場に動物の扱いを監視するためのビデオカメラの設置を法制化した。また、動物の生体輸送についても世界各国で議論がある。ニュージーランドでは3年前に、2023年4月から生体牛の海上輸出を禁止することが公表されたものの、同国議会において、海上輸出を禁止するのではなくアニマルウェルフェアにより配慮した生体輸出となるような改善を求める声などもあり、昨年12月に新政権は禁輸を撤回する方針を示した。ただ、ヨーロッパの一部の国（ドイツやルクセンブルク）やブラジルでは最近、牛の生体輸出を禁止する方向で進んでいる。

アニマルウェルフェアは持続可能な開発目標（SDGs）を考える上での重要な要素になっている。日本も畜産物の輸出国として、アニマルウェルフェアに配慮した牛の取扱いが求められている。と同時に、畜産現場で働く人々の福祉、労働環境の改善も必要なことは言うまでもない。飼養者が毎日笑顔で動物に接することができる環境は、動物にとっても暮らしやすい環境であるはずである。

写真：江戸時代にオランダの貿易商がガラス製品を日本に運んだ際、乾燥したクローバーを緩衝材として箱に詰めたことから、詰め草と呼ばれたことがシロツメクサの名前の由来らしい。「シロツメクサの花」と聞いてアライグマを思い浮かべる人はもう少数派か？（2023年5月12日、佐土原町にて）

Your Partner 全酪連
バイオブレンド
～水にも溶ける～
腸活
～腸から健康～
枯草菌＋デキストランオリゴ糖＋AG＊配合
・シンバイオティクス
・腸のトラブル予防に！
・食いつきUP
＊アラビアガム

くみあい配合飼料　乳配

くみあい配合飼料

フレーク&ペレット

➢ 乳配M

- CP 17.0%・TDN 72.0%
- ヘイキューブ、綿実を多く配合したミックスタイプ

➢ 乳スタンダード

- CP 17.0%・TDN 74.0%
- ローコストでベーシックな搾乳牛用配合飼料

➢ 乳ブレンド18

- CP 18.0%・TDN 74.5%
- 綿実・ビートパルプを多く配合

マッシュタイプ

➢ デイリープレミアムM

- CP 17.0%・TDN 74.5%
- バイパス蛋白配合
- ビタミン・ミネラル強化

➢ パワーSマッシュ

- CP 17.0%・TDN 74.0%
- シンプルな内容で低コストを実現

JAグループ
農協 | 全農 | 経済連 | くみあい飼料